

2017.5.25 全員集会 教育講座

事故・病気・悪天など アクシデント時の対応・判断・救助

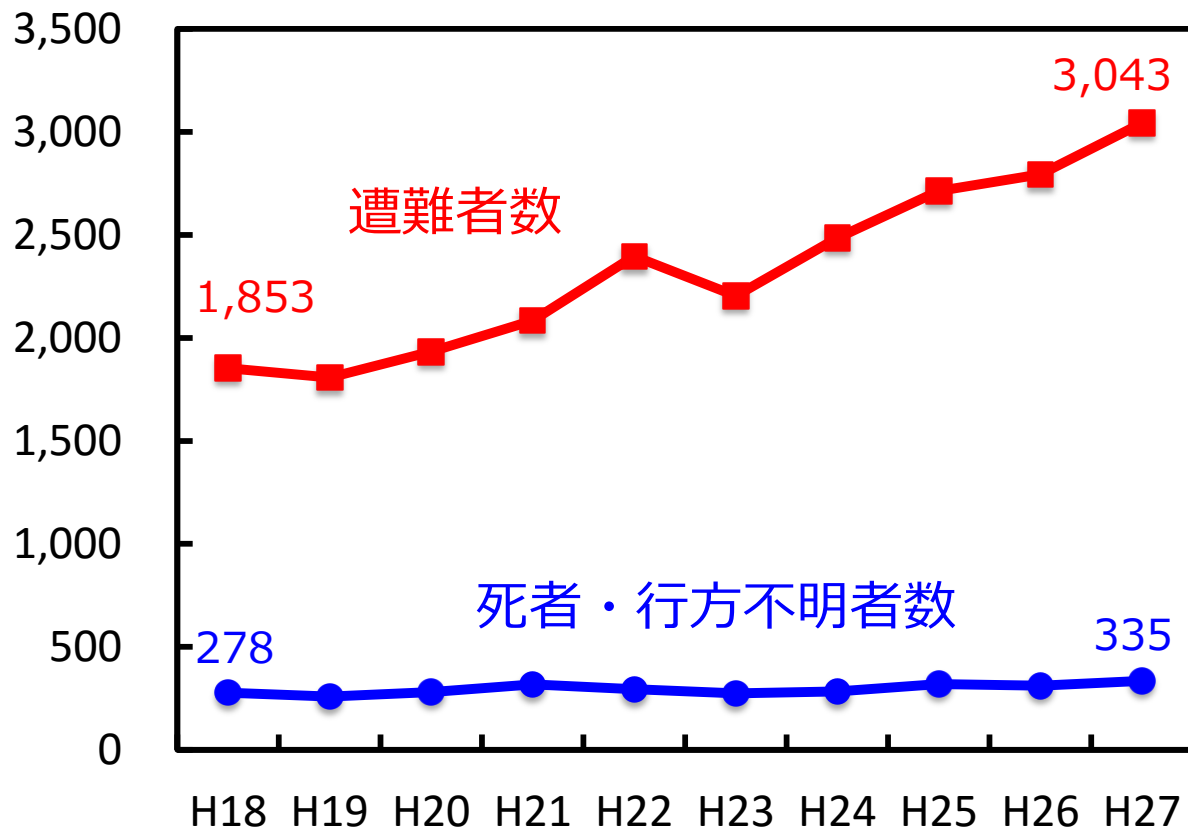
金沢ハイキングクラブ 教育部

本題に入る前に、少しデータを
(前回と同じ)



遭難者数と死者・行方不明者数

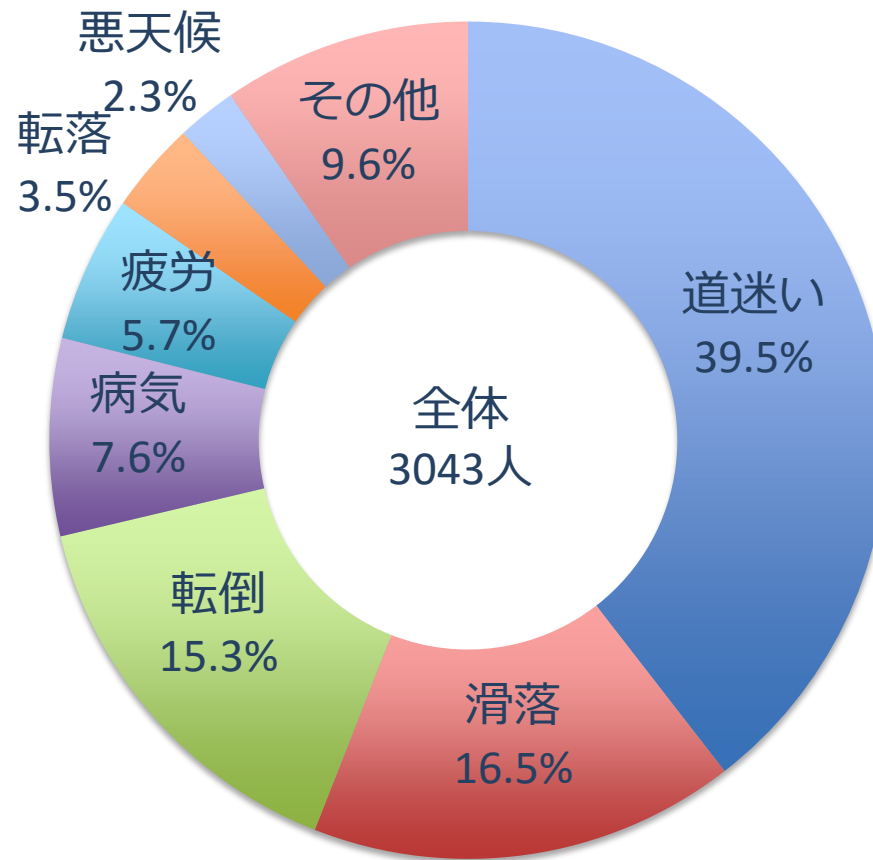
警察庁「H27年における山岳遭難の概況」から作成



とにかく右肩上がり。約1人/日が死者・行方不明者

遭難理由

警察庁「H27年における山岳遭難の概況」から作成



そこで・・・

年度初めの教育講座

~~4月 パーティ編成とリーダーシップ~~

5月 事故・病気・悪天などのアクシデント時の
対応・判断・救助

6月 救助要請とベルグバハト

山行の最終目的は、

計画通り山行を済ませることではない。

参加者全員が無事下山することである。

本教育講座の目的：**安全な山行への予備知識の確認**



まずは一般論（道迷い）



道迷いしないために

- 下山時に生じやすい（分岐が多いから）
- 常に現在位置を認識（事前に地形図で予測も）
- 「あれ？」と思ったら**戻るのみ**
 - なんとかなる
 - 時間はある。体力もある
 - もう少しで登山口など思い込みで進んだ場合は遭難する危険度大
- トラブルに陥ったら**冷静になる**
 - 脈を測る（100回／分より下かどうか？）
 - 下流、谷側には向かわない
 - ビバークするかどうか

道迷いしないために

「あれ？」といかに早く気付くか。そのために

- 地形図がわかる
 - 特徴物（鉄塔、山小屋、三角点など）や地形（尾根、沢、急登、崖など）をイメージしておく
- コンパスが使える
 - 山頂（or 登山口）の方向がわかるだけでも冷静になれる
 - 出しやすいところに地図とコンパスを入れておく
- GPSなどの機器が使える
 - 現在位置が一目でわかる
 - バッテリーには注意

どうしようもないとき

- 現在位置がわからない
- 動けない（怪我など）
- 暗くなった
- 天候が悪くなった

判断が遅れると状況は悪くなる一方。ここでも**冷静**に！

- ビバークする／しない
- 動く（戻る）／動かない
（連絡可能か、風雨がしのげるかなど）

救助に関しては来月の全員集会にて

いざビバーク

- ツエルト
 - ヘッドランプ
 - 雨具（防水）
 - 防寒着（保温）
 - 食料・水（体力）
 - 着替え（ビニール袋に入れて防水対策しておく）
- など

風雨を避け、体温を下げないことが重要

使い捨てでいいなら

- ツエルト
- サバイバルシート
- ファーストエイドキット

値段
削除

(5枚入)

※価格はAmazon

それぞれの写真は削除

1000円程度で格段の安心感が得られる

**実際の事故を例に考える
(トムラウシ山遭難事故)**

トムラウシ山遭難事故

2009年7月16日（夏山です！）に、
北海道大雪山系トムラウシ山が**悪天候**に見舞われ、
ツアーガイドを含む登山者**8名**が**低体温症**で**死亡**した事故。

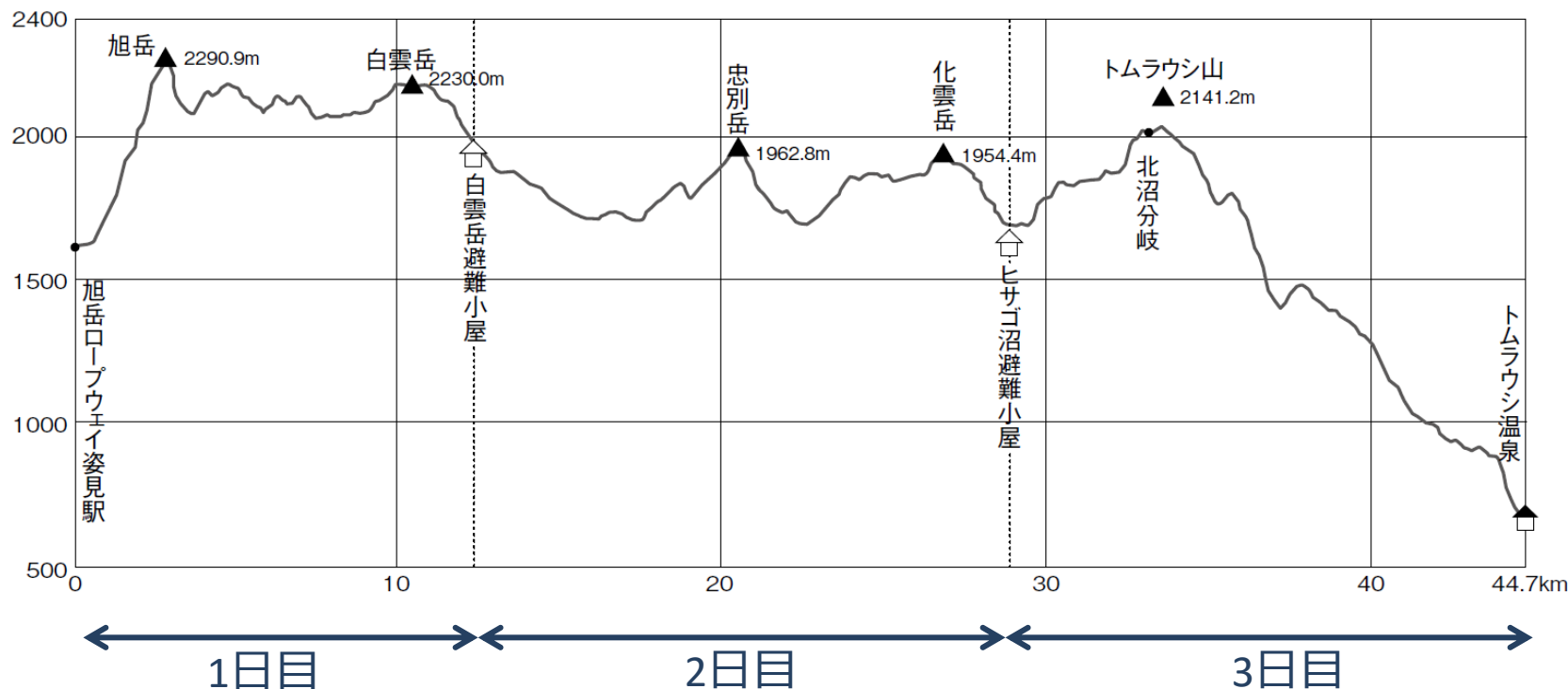
トムラウシ山遭難事故
調査報告書

平成22年3月1日

トムラウシ山遭難事故調査特別委員会

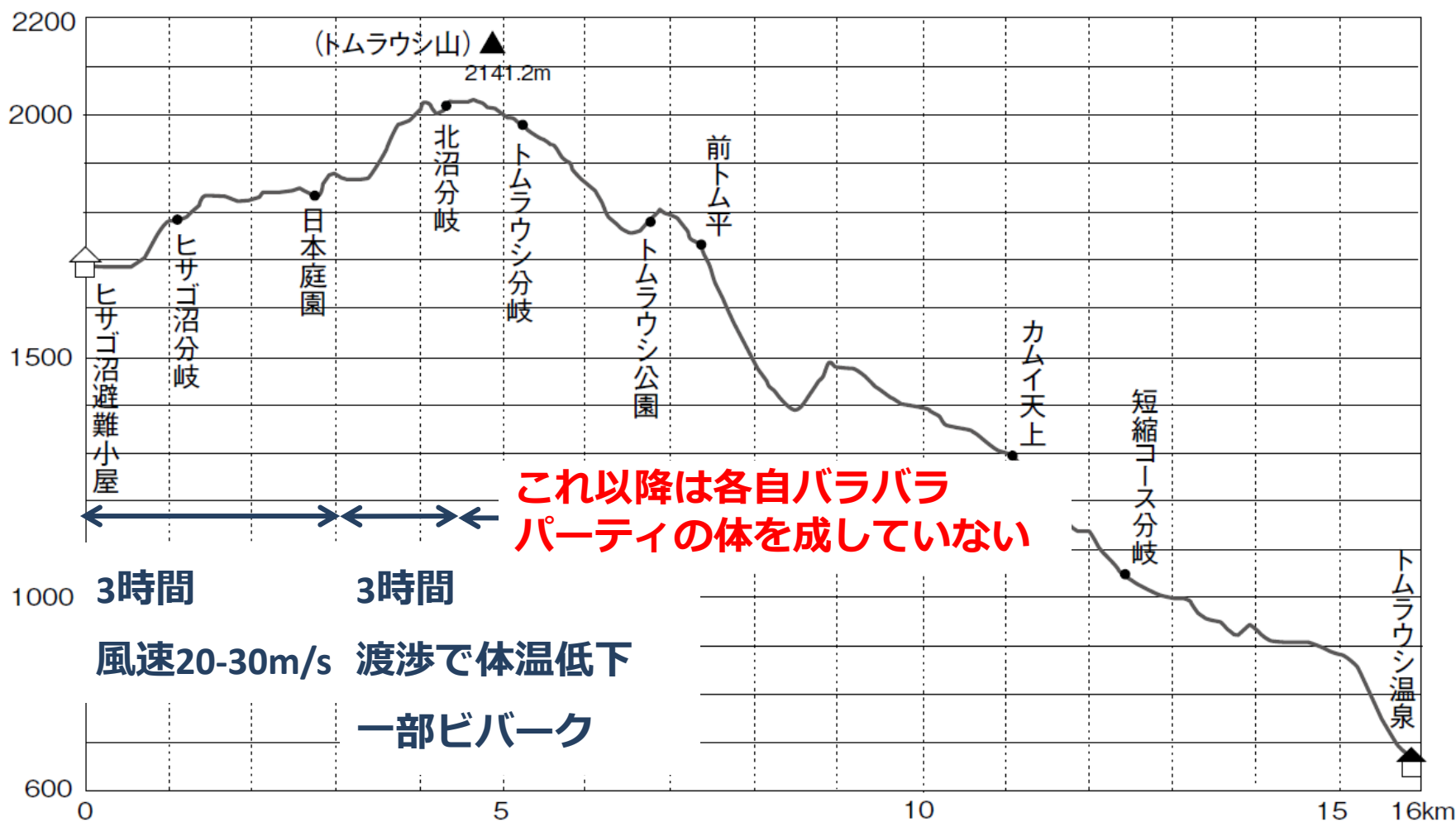
← トムラウシ山遭難事故 調査報告書
※日本山岳ガイド協会のサイトで
PDFがダウンロード可能

トムラウシ山遭難事故（全行程）



- 特に問題なし
- 天候悪化を把握
- **大雨（無風）**の中、
16kmを10時間で山行
- **ずぶ濡れの寝袋で衣服も
乾かせないまま就寝**

トムラウシ山遭難事故（3日目）



トムラウシ山遭難事故（結果）

トムラウシ山遭難事故状況図

新聞記事なので削除

- いろんな箇所で亡くなる
（登山ガイドも含む）
- 死因は低体温症
- 手前でビバークした人が生還
濡れない着替えを所持
フリース、日本手拭など
絶対に生き残る気持ち！

トムラウシ山遭難事故（原因）

- 天候不順・撤退の判断
 - ガイド、リーダーの連携が悪い
 - ツアー特有の先に進まなければいけない脅迫観念
 - 参加者の能力の幅が広い
 - 装備不足（防寒着（濡らさないことが大事））
死因は全て低体温症
 - 経験不足（食料補給（ポケットにも入れておく））
エネルギー不足で動けない
- など

トムラウシ山遭難事故

トムラウシ山遭難事故 調査報告書

平成22年3月1日

トムラウシ山遭難事故調査特別委員会

是非読んでみて下さい！
自分だったらどうするだろうか？
など考えさせられます。

さいごに

野村さんの写真

勝ちに不思議の勝ちあり、
負けに不思議の負けなし

野村克也

**遭難しなかったのは運が良かっただけかもしれない。
事前の準備（体力、知識、装備など）や
山行中における集中力・冷静さの持続が
遭難などせず無事下山できる確率を向上させる。**

参考資料

1. 日本勤労者山岳連盟 「ハイキングのA・B・C」 （第4版）
2. 日本勤労者山岳連盟 「ハイキング セカンド・ステップ」 （第2版）
3. 金沢ハイキングクラブの各種配布資料（村中提供）
4. トムラウシ山遭難事故調査報告書